

企業敬言備保障

3 ブランド化

【会社概要】
所在地 松江市大庭町1812-5
営業種目 施設警備・交通誘導警備・空港保安・空港保安・防犯カメラ販売・防犯カメラ販売施工・ビル管理・建物清掃・信用調査・医療事務等
代表者 後長佑
従業員数 760人
電話番号 0852(25)6500



創立40周年記念式典であいさつする後長利春社長(中央)＝松江市千鳥町、ホテル一畑(2017年7月)

2010(平成22)年、6代目社長となった後長利春(66)のもと、企業警備保障㈱(松江市大庭町、後長佑社長)は新たなスタートを切った。後長が目指したのは、会社のブランド化だった。まず始めたのが、安全大会の開催。既に社員は600人を超え、警備作業中に事故を起こすケースも増えてきた。建設会社の安全担当者に講話を頼み、社員の意識向上を図るとともに、周囲には「安全に力を入れている会社」とアピールすることを狙った。以後、毎年6月に開催している。

35周年にロゴマーク変更

12(同24)年には期末の10月末に合わせて、総決起大会もスタートさせた。来期の経営方針の発表や優秀社員の表彰などに加え、外部から講師を招いてセミナーを開くというもので、6月の安全大会と並ぶ一大行事に



新しくなったロゴマーク

なっている。

さらに同年には大地震や風水害、新型コロナウイルスの発生といった緊急事態に備え、BCP(事業継続計画)を策定した。「例えば警備員が新型コロナウイルスにかかった場合、その警備員の代替は誰でもいいわけではありません。あるいは災害が起きたとき、警備員が現場に駆けつけることができるか、早急に対応することも重要です。そう考えたとき、まず大事なことは警備員の安全確認で、ビジネスマネジメントの一つとしてBCPが言われた時から取り

組みを始めました」と後長は意図を語る。
同じ年に迎えた創立35周年を機に、ロゴマークを変更した。緑とオレンジを基調にし、緑は警備サービスを通じて「平和」安心を提供して社会に貢献すること、オレンジは「活発」「明るい」「若々しい」など活力ある企業を目指すことを表す。

さらにロゴマークの円形は「融和」、円形の中央を貫く線は「誠実」「責任」を意味し、真心をもって人と接し、責任ある行動をとるさまを示した。これらをもとに企業警備保障の頭文字「K」をデザイン化した。
同時に五つの「プロミス(約束)」と14の「クレド(経営理念)」を策定、「地域社会と顧客の安全と安心の確保のために、いつも最高のサービスを提供します」と誓った。いずれも公式サイトなどで公開している。

安全大会と総決起大会を開催 緊急事態に備えBCP策定も

出雲空港業務にも参入

ブランド化するうえで、もう一つこだわったのが出雲空港への参入である。警備会社にとって大きなステータスとなる空港警備だが、この頃、長らく請け負っていた鳥取空港と米子空港の業務を失った。空港で働いていた社員の受け皿も必要で、それまで大手警備会社が入っていた出雲空港への参入を狙った。

「大型自動車一種免許取得者」といった要件に適した人材を10人ほど雇用して入札に臨み、みごと落札した。これを足掛かりに他の業務も請け負い、保安検査業務やバードスワイプなど、空港業務全般を手掛けるようになった。「出雲空港は地元の空港でもありません。結果的にこれで良かったと思っています」と後長は満足げに語る。

ティアをしており、それを広げた格好だ。17(同29)年からは出雲空港のロビーに広告看板を設置し、関係をより強固なものにしている。

タブー破りテレビCM

またエリア的には16(同28)年に宇部興産ビルの施設警備に伴い、山口県宇部市に宇部事務所を開設。これにより中国5県全てに進出を果たした。業務的に

は18(同30)年に身辺警備を行う4号業務の資格を取得。これにより1号業務(施設警備)、2号業務(交通誘導)と合わせ、より包括的な警備を行えるようになった。交通誘導、施設警備を手掛ける警備会社として中国地方最大級となり、17(同29)年からは全国の警備会社の売り上げトップ100の常連になっている。

規模の拡大に伴い、14(同26)年、テレビCMの放送を開始した。それまで警備業界では、一部の大手を除いてテレビCMはタブー視されていた。警備業界は建設会社から仕事をもらって潤っている。建設会社をさしおいて目立ってはいけないという理屈だが、そこに風穴を開けた。



銅賞を受賞したCM「誇り編」

が強いですが、今は女性が活躍する時代です。あえて女性しか出ないCMを作りました。7代目社長でCMを企画した佑は、意図を語る。このCMは第42回島根広告賞で銅賞を受賞した。その後よりクルート活動用、ITやAI(人工知能)技術を使った新しい警備を紹介するものなど、時代に合わせたCMをつくり続けている。

(文中敬称略)

―次号に続く―
(フリーライター・内藤潤)



出雲空港での手荷物検査



清掃ボランティアの様子